

令和4年度 第3回 犬山市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和4年10月19日（水）午前10時～

場所：犬山市役所 5階 501・502会議室

出席者：19名中17名

1 開会

【事務局】 開会の挨拶を行う。

2 あいさつ

【磯部会長】 挨拶を行う。

【事務局】 犬山市地域公共交通会議の委員数19名に対し本日は17名が出席で、過半数をこえているため、本日の会議が成立していることを宣言する。
傍聴者（2名参加）について、説明を行う。また、代理出席、配布資料について説明を行う。協議事項①および③の質疑応答のため、株式会社国際開発コンサルタンツ（1名）、また協議事項②の質疑応答のため名鉄西部交通株式会社（1名）の出席を報告する。

3 議事

【磯部会長】 議事要旨の署名に、安藤(和)委員と小林委員を指名する。

（1）協議事項

①地域公共交通計画の策定について

【事務局】 資料1-1、1-2、1-3「地域公共交通計画の策定について」の説明を行う。

【磯部会長】 各交通事業者から現状について補足説明してほしい。

【花村委員】 コロナの感染状況によって増減がある。

コロナ前と比較して、定期利用85%（通学：90%程度、通勤：85%程度）、定期外利用70～75%となっており、定期外は空港線を除くと80%となる。

犬山市周辺路線では観光目的も多いため、他路線と比較すると若干低くなっている。

【宮部委員】 犬山市内線では前年と比較して、明治村線が108%、リトルワールド線147%だが、コロナ前と比較すると70%に届いていない。

一般的な住宅地の路線では80%程度まで戻っている。

【安藤(和)委員】 尾張地区について尾張北部交通圏（小牧・春日井・犬山）では、コロナ後の戻りが遅い傾向にある。特に夜の利用が少ない。

団体での飲食に起因するタクシー利用が減っており、半分以下という状況になっている事業者もある。

【磯部会長】 犬山市が公共交通計画を作成すると、上位計画と市民の声が重要になると思う。

しかし、隣町や大都市名古屋とのつながりも重要に思う。どのように考えているか。

【事務局】 本市のコミュニティバスについては、小牧市と大口町に乗り入れており、現状では検討できていないが、連携する必要があると捉えている。

隣町ということでは、扶桑町でチョイソコの実証実験が始まり、1日に30~40人の利用があると聞いている。犬山市でも新しい交通手段ということでデマンド交通の実証実験を行うが、扶桑町がやっているからやるということではなく、犬山市内の地域においてふさわしい交通になるかという視点で検討していきたい。

【磯部会長】 企業送迎等の移動手段もある。そうした様々な輸送手段があるため、幅広い移動手段を視野に入れてほしい。

【事務局】 先日、犬山駅の東口および西口で企業送迎等のバスの調査を1日行った。現在結果を取りまとめ中である。

【飯坂委員】 道の駅の問題についてはどのように組み込まれているか。また、高齢福祉会館が便利な位置に移転したが、福祉施設に来るバスをどのように確保するか。

また、24ページに記載のある収支率について、10%を切らないような利用者負担をお願いする、というような考えはあるか。

【磯部会長】 公共交通計画の手引きにも収支率等の数字を記載することが書かれているため、事務局の見解を伺いたい。

【高木委員】 道の駅については、令和元年度に基本計画を策定したが、策定後にコロナ禍が始まり、これによる社会情勢や経済状況の変化によって、現在見合わせている状況である。

今後どうなるのかについてここで回答できないが、現状としては止まっている状態である。

【事務局】 15ページに施設の分布状況と交通網の図を掲載している。犬山市では施設が散在しており、これら施設にコミュニティバスを運行させている状態で現在の収支率となっている。立地適正化計画により都市が集約されていくと、バスの運行が効率化でき、収支率に反映されると考えている。

利用者負担に関しては、事務局としては値上げという選択肢もあるが、議論を深めたい。

【安藤(和)委員】 犬山駅の西口は観光に対して非常に重要な場所だと思う。現在、城下町までは駅から歩いていと思うが、木曾川を挟んだエリアとして観光していただくルートは考えられないか。

また、今井・前原線は災害の多いエリアとなるので、ここで行うデマンドについては災害協定を結んで実施していただくことが望ましいと思う。

【事務局】 鵜沼へ行く観光ルートについて、犬山遊園から鵜沼へ行く観光ニーズがあることは承知しているので、岐阜県との協力も検討していきたい。また、事業者間の連携についても公共交通計画の事業として進めたい。

現在のわん丸君バスは、高齢者の買物・通院にフォーカスして再編してきたが、今後は人口減少もあり、新しい利用者を獲得する視点を持っていきたいと思う。

【磯部会長】 現在の意見は観光と災害が主旨だったと思う。観光については「観光拠点」と捉えると集約課題1につながる。

【鈴木委員】 公共交通が充実していないと免許証の返納が進まないという印象がある。高齢者の方で原付に乗って買い物に行かれる方、体調が悪いのに車で病院に向かう方がいるのが現状。また、昨今「サポカー」と呼ばれる車もあるが、現状はそういった車ばかりではなく、まだまだアクセルの踏み間違いの事故も発生している。

警察の立場でいうと、公共交通の充実は交通事故の減少に寄与するものと考えている。

わん丸君バスやデマンド交通が上手に機能すると、運転免許証の返納も進む可能性があると考えている。

【事務局】 東海地方全体の傾向として、1人1台自家用車を所有しており、そもそも公共交通を利用する選択肢がない方が多いと考えている。そうした方にも公共交通に少し目を向けていただく事業として、モビリティマネジメント等の啓発活動について進めていきたい。

【本田委員】 集約課題1及び4について、行政と交通事業者のパートナーシップの強化をお願いしたい。

交通事業者は全国的に非常に厳しい状況にあり、愛知県でもタクシー事業者が廃業する事例も出ている。将来、ニーズが高まった際に対応しようにもできないという状況にならないよう、事業者が存続できる仕組みなどの検討をお願いしたい。

【事務局】 「連携」というキーワードは重きを置くとともに、「防災」というキーワードを前面に出して今後修正していく。

【花村委員】 走っていることは9割の方が知っているが、どこに行けるのか知っている方は1割程度となっており、これは公共交通を認知していると言える数字ではないと感じる。公共交通について知り、考えていただけるような周知・告知方法を考えていきたいとともに、少しでも利用してもらう風土づくりを考えていただきたい。

【事務局】 使っていただく風土づくりは大切だと感じるので、課題の書き方を少し考えたい。

【安藤(和)委員】 名鉄グループが地域交通アプリを作成したが、これは名鉄グループを超えて公共交通を利用していただくような考え方で作成されている。

これまでは情報の周知が上手ではなかったため、これから広めていきたい。

【磯部会長】 他に意見等は。

今回提案いただいた資料の方向性で作成を進めてよろしいか。

【委員】 異議なし。

【磯部会長】 全員一致で協議が調った。

②デマンド交通実証実験について

【事務局】 資料2、2-1「デマンド交通実証実験について」説明を行う。

【磯部会長】 各委員から意見等は。

【飯坂委員】 スケジュールが示されていないが、登録対象者への周知などについてはどこまで進んでいるのか。

【事務局】 本日、乗降場所の承認が調ったら、事業者より運輸局へ申請していただく。運行までに期間が開いてしまうことから、地域での説明会はまだ行っていないが、11月中旬から説明会を始めたいと考えている。また、回覧については地域に回っており、事業実施については周知されているものと考えている。

【磯部会長】 他に意見等は。

主に乗降場所について皆さまからの意見がなければ、承認としたいがどうか。

【委員】 異議なし。

【磯部会長】 全員一致で協議が調った。

③わん丸君バス再編について

- 【事務局】 資料3「わん丸君バス再編について」の説明を行う。
- 【磯部会長】 各委員から意見等は。
- 【飯坂委員】 福祉施設へのアクセスを良くするという意味で、老人福祉施設のバス停を移設して利便性を上げてほしいという要望についてはどうなっているか。
- 【事務局】 老人福祉施設は栗栖・富岡線の富岡南洞バス停から南別祖バス停の間にある施設で、現状では試走まで完了しており、3分の運行時間増となることまで確認している。
この3分がどこまで全体に影響するかという確認・調整と、実際に利用される方の確認を進めて、実施できるようであれば進めたい。
- 【飯坂委員】 地域にはわん丸君バスに対する意見をまとめる取り組みが進められているが、事務局は活動や要望について承知しているか。
- 【事務局】 意見にある団体はコミュニティバスの運行当初より活動されている団体で、平成30年度ごろまでは要望書を頂いて検討する程度だったが、近年では事務局が会に参加させていただいており、会の状況や要望などについては当然承知している状況である。
- 【工藤委員】 増車の対応であれば、今井・前原線の便数を増加させる方が望ましいと考える。
栗栖・富岡線では、以前の栗栖線で使用していたマイクロバスから、ワゴン車のNVへ変更された関係で、紅葉シーズン等の積み残しが発生しているという形となっている。
- 【松浦委員】 増車はポンチョかNVかどちらかか。
また、ダイヤを作成する際には、運行時間等の設定に非常に厳しくなっている情勢であり、作成してからでは遅いので、運行させていただけるのであれば、ぜひ一度相談してほしい。
- 【事務局】 車両はポンチョかNVのどちらかとなる。
ダイヤについては承知した。
- 【森岡委員】 楽田地区からすると病院や駅までの乗車時間が長いため、急行便に車両を充ててほしいと考えている。
- 【磯部会長】 事業費の削減といわれることが多い中で、増車や増便をできるのはうれしいことであるが、どちらかに決めるとなると難しい問題だと捉えている。
しかし、市の南部に関しては名鉄電車も運行されているので、鉄道との連携により上手に使っていただける方法を考えてほしい。
また、本議題について事務局に整理してほしい。
- 【事務局】 メリットおよびデメリットについてもう少し深くまとめた資料を次回の会議に提出したい。
以前の楽田東部線ではより直行性のある路線だったが、再編のたびに地域要望を受け入れて現在のような路線となっている。一度バス停を置くと、利用者がいる限りなかなかバス停をなくすことは難しいと考えている。
- 【磯部会長】 他に意見等は。
事務局の方でまだ整理する内容があるが、提示された方向性で再編を進めることでよろしいか。
- 【委員】 異議なし。
- 【磯部会長】 全員一致で協議が調った。

(2) その他

【鈴木委員】 愛知県内の交通事故死亡者数は 103 名で、昨年比プラス 23 名となっている。その内歩行者が昨年比プラス 11 名で、特に横断中や交差点での事故が増えている。
薄暮時間等には、車はライト点灯、歩行者は反射材等を使用して交通安全に努めてほしい。

【磯部会長】 以上をもって本日の議事を終了する。

【事務局】 閉会の挨拶を行う。次回会議の案内をする。

以上

令和4年 11月 11日

本書は、令和4年10月19日に開催された犬山市地域公共交通会議の議事要旨に相違ないことを証する。

署名人 小林 裕之

署名人 安藤 和人